

当別町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

当別町は、札幌市と境界を接し、札幌中心部から約15～25kmに位置しており、面積は、422.86平方キロメートル。人口(令和2年12月1日住民台帳)は、15,654人である。コミュニティバスは、スウェーデンヒルズ地区とJR石狩太美駅を經由し、札幌市北区とを結ぶ地域間幹線路線とこれに付随するフィーダー5系統を確保している。地域間幹線路線については、通勤・通学・高齢者等の通院のほか、買い物などに利用されており日常生活に不可欠なものである。フィーダー系統は、JR石狩当別駅南口で幹線と接続しており、市街地から離れている地区から輸送する青山線やデマンド交通として市街地予約型線を運行している。また、平成29年9月に開業した道の駅へコミュニティバスの路線を運行させ、道の駅への誘客や西当別地区の公共交通の充実を図った。交通弱者である子どもや高齢者の移動手段を確保することで、住民の住環境の向上、高齢者の行動範囲拡大による健康増進を図るほか、コミュニティバスを通じて環境問題への啓発も資することができる。一度失ってしまったバス交通を回復させるために5年の歳月を要したことを考えると、バス路線は容易に廃止すべきものではなく、町民の健康で安全な必要最低限の住環境を守るためにも、地域公共交通の中心であるコミュニティバスを確保することは重要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

コミュニティバスの運行による住民サービスの向上効果を得るため、次の目標を定める。

青山線 年間利用者数を30年度比1%増とする。 目標 7,732人
市街地予約型線 年間利用者数を30年度比7%増とする。 目標 4,389人
西当別道の駅線 利用者数を月平均600人を目指す。
車両減価償却費等国庫補助 交通弱者の年間利用者数を30年度実績以上とする。
目標 2,706人

令和2年度度事業概要

- 1 青山線① JR石狩当別駅南口～とうべつ整形外科～みどり野会館 1回200円 平日7便 休日6便 運行日数365日(平日242日 休日123日) 運行回数1,216回
- 2 青山線② JR石狩当別駅南口～とうべつ整形外科～青山会館 1回200円 平日のみ8便運行 運行日数242日 運行回数968回
- 3 市街地予約型線 JR石狩当別駅南口～当別町内～JR石狩当別駅南口 1回200円 平日のみ8便運行 運行日数242日 運行回数1,382回
- 4 西当別道の駅線 北欧の風道の駅とうべつ～JR石狩太美駅～ヒルズE5-3-17 1回200円 平日9便 休日9便 運行日数365日(平日242日 休日123日) 運行回数1,642回
- 5 スターライト道の駅線 北欧の風道の駅とうべつ～JR石狩太美駅～太美スターライト中央 1回200円 平日3便 休日3便 運行日数365日(平日242日 休日123日) 運行回数547回

地域公共交通の現況

- ・JR札沼線
(石狩当別駅、石狩太美駅、北海道医療大学駅)の3駅
- ・当別ふれあいバス
地域間幹線系統: あいの里金沢線
地域内フィーダー系統: 青山線、市街地予約型線、西当別道の駅線
- ・月形当別線

協議会開催状況

令和元年6月11日 第1回協議会を開催
主な協議事項: 令和2年度地域内フィーダー系統確保維持計画他
令和元年10月15日 第2回協議会を開催
主な協議事項: 令和元年12月1日付けダイヤ改正について他
令和2年1月10日 第3回協議会を開催
主な協議事項: 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
令和2年2月20日 第4回協議会を開催
主な協議事項: 令和2年度事業計画・予算案他
令和2年6月29日 第1回協議会を開催
主な協議事項: 令和3年度地域内フィーダー系統確保維持計画他
令和2年10月6日 第2回協議会を開催
主な協議事項: 令和2年12月1日付けダイヤ改正について他
令和2年12月24日 第3回協議会を開催
主な協議事項: 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

令和2年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・「とべナビ」アプリの開発・運用、デジタルサイネージの設置
- ・小学生向けのモビリティ・マネジメント
- ・小中学生向け夏休み冬休み子ども定期券の販売
- ・当別中学校向けの市街地予約型線の利用意向調査
- ・利用者ヒアリング調査(車内ヒアリング)

2) 運行系統

【青山線】



【西当別道の駅線】

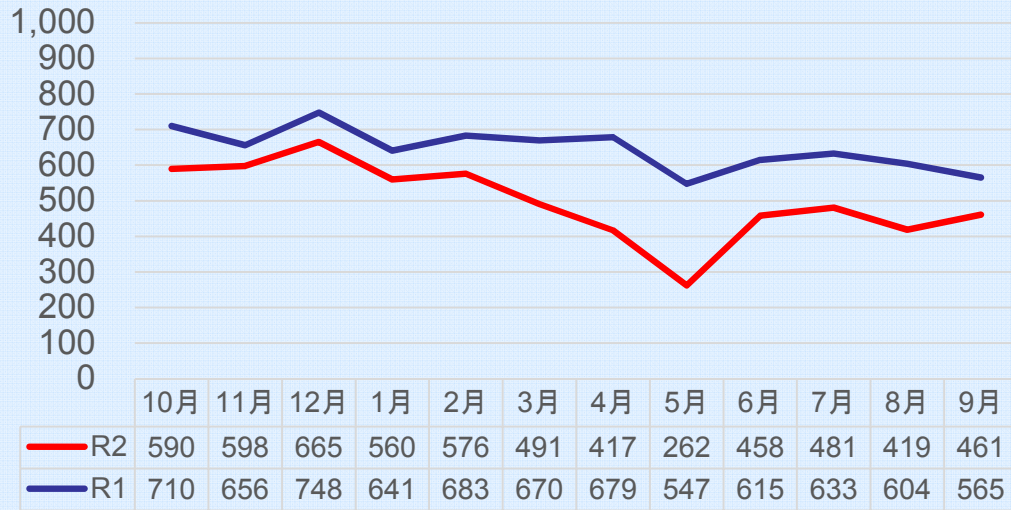


【市街地予約型線】

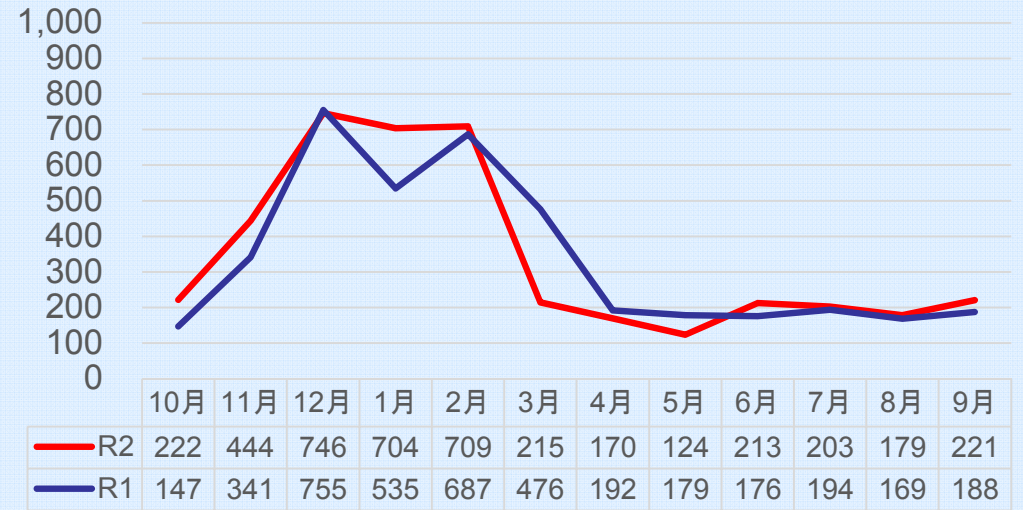


3) 利用実績

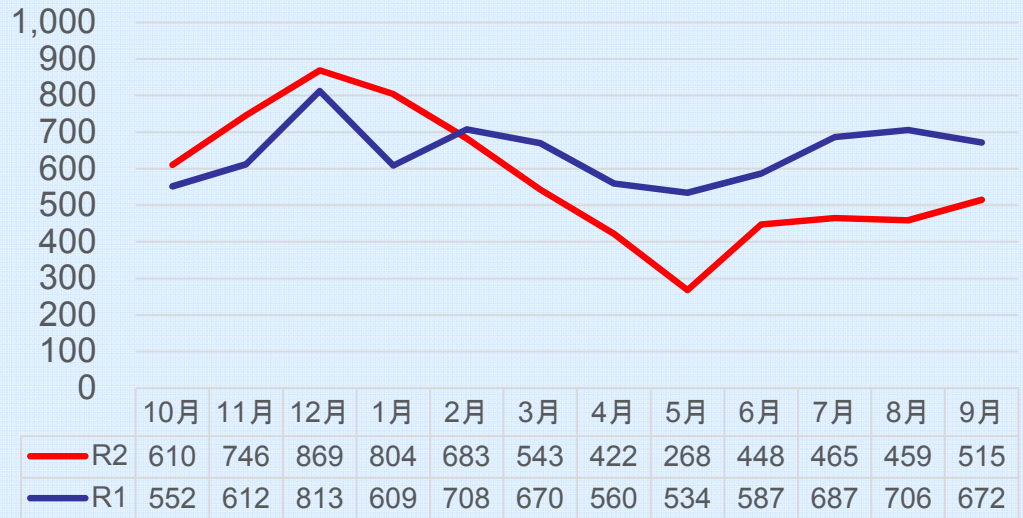
青山線



市街地予約型線

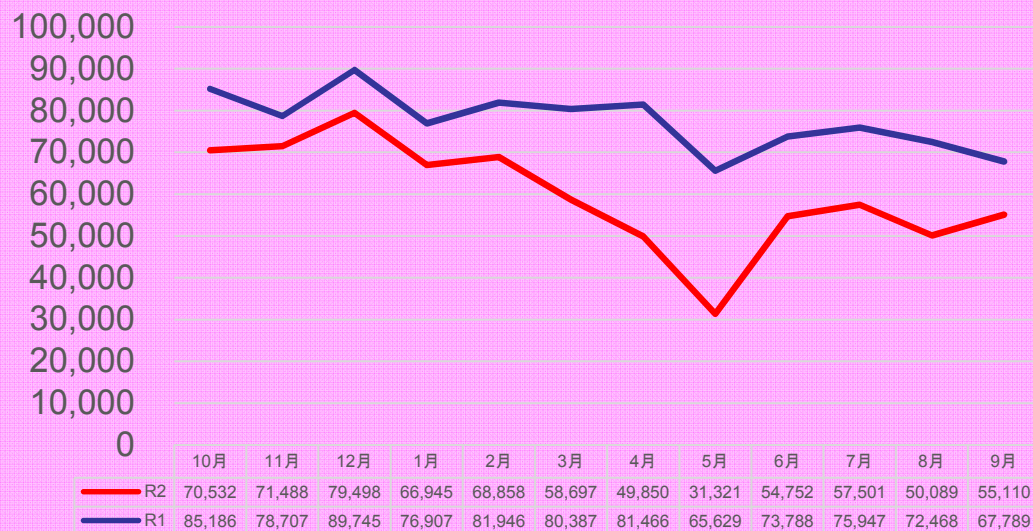


西当別道の駅線・スターライト道の駅線



4) 収入実績

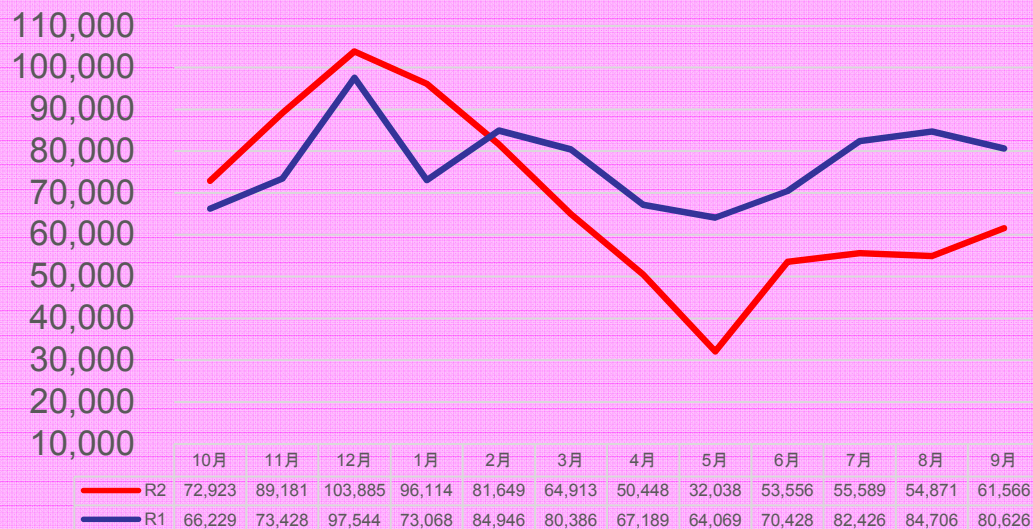
青山線



市街地予約型線



西当別道の駅線・スターライト道の駅線



5) 事業実施の適切性

1. 青山線①②

事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施されている。

2. 市街地予約型線

事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施されている。

3. 西当別道の駅線、スターライト道の駅線

事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

1. 青山線①②

年間利用者数 目標 7,732人 実績 5,978人

2. 市街地予約型線

年間利用者数 目標 4,389人 実績 4,150人

3. 西当別道の駅線、スターライト道の駅線

月間利用者数 目標 600人 実績 569人

4. 車両減価償却費等国庫補助

交通弱者の利用者 目標 2,706人 実績 3,200人

7) 事業の今後の改善点

1. 青山線①②

今後とも地区の人口は減少傾向にあるので、ダイヤや運行形態について検討する。また、高齢者が多い地区なので、予約型線の使用方法やふれあいバスの乗り方などわかりやすく周知し、利用に繋げる。

2. 市街地予約型線

新型コロナウイルス感染症の影響により目標は達成できなかったが、コロナ禍においても前年同月比を上回る月もあり、一定の効果は出ている。今後も引き続き市街地予約型線の使い方等を周知していく。

3. 西当別道の駅線、スターライト道の駅線

新型コロナウイルス感染症の影響により目標は達成できなかったが、影響を受ける直前までは利用者が少しずつ伸びてきていた。今後はコロナ禍で減少した利用者を取り戻すため、利用促進に努めていく。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、目標を達成することができなかったが、バスロケーションシステム等を閲覧できるアプリを開発するなど、地域内フィーダー系統では先駆的な取組を行っており、引き続き地域公共交通網形成計画に基づき、更なる利用促進の取組を期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。